

JAAC だより

求められるコミュニケーション能力とは？（最終回）

— 「お互いに理解しあう」ことの大切さ、難しさ（2） —

前々号と前号を通してコミュニケーション能力のうちで最も大切な、「初めて会う人に対して自ら話しかけること」と「お互いに理解しあうこと」の大切さと難しさについて、いくつかの例を挙げてお話をしてまいりました。そこで、今号では今回のテーマのまとめとして、ビジネスの世界で多くの企業が皆さんに求めている「コミュニケーション能力」について皆さんと一緒に考えてまいりましょう。

皆さんは「お互いに理解しあう」ためには様々な技法によりことばを選び、また、必要に応じて身振りや手振りを交えて相手に自分の意思を伝えることの必要性を理解されたと思います。それは相手が日本人であれ、外国人であれ、お互いに意思の疎通を図る上での根本は変わりません。日常的な会話のなかではお互いの意思の疎通が容易に図れても、会議や交渉の場での議論となるとお互いに感情的に走りやすくなり、お互いに納得の上で理解しあうことが難しくなります。特に会議や交渉の場では、お互いの利害が絡み合い、時には自分たちの利益を押し通すために激論におよぶこともしばしばです。私たちが心に留めておかななくてはならない最も重要なことは、感情的な激論を交わした相手であっても、それは議論の上でのことであり、自分とは考えが異なることを理由に相手の人間性までも否定してはならない、ということです。相手と激論を交わし、時には罵声にも似た表現を使うこともあることでしょう。感情的には相手の顔を二度と見たくない、と思う気持ちを持つこともあることでしょう。しかし、このことがコミュニケーション・ブレイク・ダウンとなり、「お互いに理解しあう」上で絶対に引き起こしてはならないことを覚えておいてください。議論と喧嘩は違うものです。このような意見の違いによって、相手のことを悪く思ったりする経験を皆さんも少なからず持つておられることでしょう。一般的に「日本人は議論が下手だ」と言われていますが、それは、ことばの伝え方（相手への言い方）やことばの選択のミス、相手への遠慮（特に相手が初めて会う人や年上の人などの場合）などから自分の考えや意思を率直に上手く相手に伝えられない、といったことに加えて、考え方の異なる相手に対しては否定的な感情を持ちやすい、ということが根底にあるようです。

このことは、前々号でもお話ししましたが、日本と欧米の長年にわたる文化の違いが大きく影響していると思われます。日本人は、「自分（自分たちの仲間）と考え方が異なるのはおかしい」という風土の中で独自の文化を築き、一方、ユーラシア大陸に住む人々は、「自分たちとは違う民族や部族だから考え方が異なるのはあたりまえ」という風土の中で暮らしてきました。ですから、議論の場で感情的になったとしても、それは、何とか相手に自分の考えを理解してもらうための方法であるのですが、日本人の場合は感情的な議論となると、どうやら相手への「怒り」という感情が出てしまいやすいようです。この点については、自分はどうなのかと皆さん自身の心に問うてみてください。欧米人は感情を交えた激しい議論をした後でも、「握手」をすることでお互いに敵意がないことを確認しあいます。日本人にも、「礼に始まり、礼に終わる」という素晴らしい精神を育み、それを継承してきているのですから、その点においては欧米人も日本人も同じだと思いますよ。

さて、皆さんが就職されて企業の社員になると、社内会議や取引先との会議や打ち合わせに参加することになりますね。取引先の相手が外国企業になることも当然あるでしょう。その時に皆さんの持つ「コミュニケーション能力」が発揮されるのではないのでしょうか。前々号でも申し上げたように、JAAC 生の皆さんは現在アメリカで学びながら、生活をしているのです。その環境の中で自然に身につけている「英語による相手とのコミュニケーション力」というものは日本の大学生は持ちたくても持てるものではないはずです。繰り返しになりますが、企業が求めている高度なコミュニケーション力とは、単に英語ができて外国人との商談ができれば良いというものではありません。相手が日本人であろうと、外国人であろうと、いつどんな時でも、「お互いに理解しあう（理解しあうことのできる）」コミュニケーション力を求めているのです。この能力こそが、年齢差が大きな人たちが一つの会社の中で同時に働いている環境の中ではどうしても必要なことなのです。企業にとって、企業を動かしているのは「人」であり、それは単なる「人材」ではなく、「人財（人は財産）」であると言わしめている所以はそこにあるのではないのでしょうか。どうか、これらの点をご理解された上で、就職をする前の学生時代のうちに、「人（相手）と意思の疎通を図る」とはどのようなことなのかを身をもって考え、学んでいただければと願っております。就職面接の際に、短時間で自己紹介をすることも、「相手（面接担当者）と理解しあう」ことであることを忘れないでください。相手のレベルに合わせて自分の意思を伝達することは、以前にもお話ししましたように「プレゼンテーション」でもあるのです。つまり、自分自身を知ってもらうためのプレゼンテーションなのです。 （完）（カリフォルニア事務局：照井）

2011 年の忘れられない出来事

— 今なお続く東日本大震災被災者の苦悩 —

死者、15,841 人。行方不明者、3,493 人。これは震災後ちょうど 9 ヶ月を経過した 12 月 11 日現在の東日本大震災犠牲者の数です。この数字を追い続けて見ていると、月ごとに行方不明者の数が減り、死者の数が増えてきています。行方不明になられた方の身元が判明し、その方の死亡が確認されたのでしょうか。それにしても、この数字からもわかるように、約 2 万人の方々の尊い命が犠牲になったことは事実です。行方不明者のご家族におかれましては、一日も早くご家族の安否と身元の確認が判明されることを心底からお祈りする次第です。そして、既にお亡くなりになられていて未だご家族のもとに帰ることができない方々におかれましては、一刻も早くご家族のもとに戻られて、安らかに眠られることを祈っております。

月日の経過とともに、日々の生活に追われる私たちにとって、震災の記憶が少しずつ薄れていくような気がします。震災の影響を受けなかった地域に暮らしている人たちは、決してこの記憶を薄れさせたり、消し去ってはならないことだと思います。私自身も震災の影響を受けることなく、家族もいつしか何事もなかったかのように日々の生活を送っています。本誌を担当する私にとっての役割は、JAAC 生やその親御さん方に役立つ情報のご提供や留学事情などについてお伝えしていくことですが、私たちの記憶からこの度の出来事を薄れさせないために、編集者の独断で震災にかかわる記事を時折掲載しております。今も被災地の仮設住宅で暮らす大勢の方々の苦悩は計り知れません。また、やむなく故郷から逃れるようにして他県に移り住むことを余儀なくされた方々も大勢いらっしゃいます。なかには、国外に脱出された方もいらっしゃいます。ご家族や仕事を失い、家も土地も失った方々の中には、土地や家を失ったにもかかわらず、その購入ローンだけが残ってしまった方々もいらっしゃいます。このような方々に私たちがしてあげられることは何なのでしょう。私自身も、いつしか震災のことを気にかけることが少なくなってきていると気づき、あるボランティアグループの一員として微力ながら復興支援に協力することを決め、できる範囲での協力活動を行っております。以前、本誌でも掲載しましたが、岩手県釜石市出身の私の友人らとともに、現地の漁業復興の一端として漁師さんたちが再び海に戻れるように、漁師小屋の建設や網につける浮き球の購入といった地味ですが、現地での復興に必要な不可欠な支援を行っております。活動に参加して何ヶ月か過ぎてみると、一個人としてできることの微力さと限界をあらためて感じている次第です。また、続けることの難しさも身をもって経験しました。

既に募金やボランティア活動に参加された皆さんもいらっしゃることでしょう。被災地から遠く離れた私たちにとって、被災者の方々にしてあげられることには限りがあります。私たちにも、私たちの守らなくてはならない家族と生活がありますので、募金やボランティア活動への参加も限りなくできることではありません。であるならば、せめて、平穩に暮らしている人たちは、被災し、犠牲となった方々の記憶を薄れさせないことではないのでしょうか。いや、決して、忘れることのないように努めるべきではないのでしょうか。本誌の今号において、通常ならば『2011 年を振り返り・・・』という表題で、私たちの記憶と照らし合わせながら今年の出来事を皆さんとともに振り返ってみるのですが、今年は震災のことだけを取りあげて、このような編集者個人の勝手な記事を掲載することにいたしました。

被災地で暮らす方々、犠牲者のご遺族、そして、福島第一原発も含めて、震災の影響で故郷から離れて暮らす全ての人々に一日も早く平穩な日々と暮らしが戻ることを心からお祈り申し上げます。 (照井)

Let me remind you. . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ◎カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp

冬季休業期間と緊急連絡先のご案内

JAAC 日米学術センターは、以下の日程を冬季休業期間とし事務局の営業をお休みいたします。つきましては、休業期間中の緊急連絡先をご案内させていただきますのでご確認ください。

【JAAC 日米学術センター本部】12 月 28 日 (水) ~1 月 4 日 (水)

Season's greetings from all of us at JAAC.

May the New Year bring joy and peace to you and to those you love.

Our sincerest wishes for happy holidays.

ご家族の皆様におかれましては喜びと平穩な日々と

素晴らしい新年をお迎えになられますことを心よりお祈り申し上げます

JAAC 日米学術センター